

浄泉寺報

第12号
2018年
春彼岸



お釈迦さまの誕生！

なにが有り難い？(二)

浄泉寺住職 望月廣三

前回、正岡子規の「悟りとは平気で生きることだ」と言われた、この至言しげんを取り上げた。若いころ、私はこの言葉の意味がまったく理解できなかった。どうして平気になれるのか。人の世には不安や苦悩が充ち満ちている。にもかかわらず、子規は「平気である」と

言われているのである。どうすれば平気になれるのか、どうなれば平気になれるのか…。私は思い悩んだ。そして、しだいにこの問題をあきらかにせねばならん、と強くおもうようになった。ここに仏教の要諦ようたい(肝要なさと)があるのだ、とおもった。そして、おかげでどうか、少しずつ解ってきたことがある。そのことをここであきらかにしたい。

それは、まず何といっても、求めつづけることの大切さだ。そしてそれは、「求める」ことの本質であった。つまり「求める」ということは「求めざるをえないこと」があつて求めるということなのだ。否否いやいやではつづけられるはずがない。求めざるをえない「こと」があつて、求めるのである。だから、この「こと」が最も重要な

だ。それは何なのか。それは人によつて異なるだろう。肉親の死であつたり、自身の病氣であつたり、貧困であつたりとさまざまだが、共通点はどれもこれも「不幸」なのである。けつして「幸せ」なことではない。「あの苦しい辛いことが…」が、私たちを救つてくれるのである。このことを親鸞聖人は「遇あいがたくして遇あう」と教えられた。つまり聖人は、苦しみや辛さこそが「如来にょらい」だと教えられたのである。

人はなぜ迷うのか。それは「煩惱ぼん」に因よるからだ。煩惱こそが迷いの根源なのである。だから天台宗などでは厳しい修行がある。修行によつて迷いの根源である煩惱を断ち切ろうとするわけだ。しかしどんなに修行しても、戦争になれば人を殺さねばならないし、

裏切られれば相手を憎むだろう。これらの感情はいくら修行しても切断できないのだ、と親鸞聖人はさとられた。そればかりか、理性ではどうすることもできぬ煩惱だからこそ、救いを求めざるをえないのだとさとられたのである。実際、悩みや苦しみがなければ求めやしないだろう。求める必然性がないからである。人間の本音は、この世は愉たのしく生きて、死ぬときには楽に、である。誰しもそうおもっている。しかし現実はそのなにごとでもない。にもかかわらず、この苦に満ちた現実を救いのタネにできる人は極めて少ないのだ。それがまた人間なのだといふことが、その限界を、歳を取るとわかってくる。まさに亀の甲より年の功、である。

(つづく)

花まつり

とき：4月8日(日)

は：浄泉寺

い：午後1時半

お釈迦さまのたんじょうびを
みんなでおいしゃししょう

どなたでもご参加いただけます!!

白い象をみんなでお飾りして、お釈迦さまの誕生日をお祝いします。

ご参加のお子様には、記念品をお渡しします。ご縁のあるお子様とぜひ一緒にお参りください♪

お内仏(仏壇)に座る ⑩

～ 花まつり ～

4月8日は、お釈迦さまの誕生日です。お釈迦さまは、今から2500年程前にお生まれになりました。お釈迦さまは生まれてすぐに七歩歩き、天と地を指差して「天上天下唯我独尊(わたしはわたしひとりとして尊い)」と言われたと伝えられています。お釈迦さまに限らず、私たちはみんな「オギャー!」と独り泣きながらこの世に生まれてきます。生まれた赤ん坊は、どこの国に生まれたとか、男だとか女だとか、豊かな家か貧しい家か等、人と比べることなくすべてをまるごと「オギャー!」と引き受けて生まれてきます。このことが、まさに「天上天下唯我独尊」というお釈迦さまの誕生の意義なのではないでしょうか。

「合掌は天上天下唯我独尊の表示である」とは、大谷派の先達・暁烏敏先生の言葉です。お釈迦さまの誕生をお祝いする花まつりの季節、私たちも手を合わせて、私が私として生きていることに思いをはせてみたいと思います。

(浄泉寺若院・釋亜世)

平成30年(2018年)年忌表

ご法事(年忌法要)は、亡き人をご縁に、仏さまの教えを今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	平成29年(2017年)亡
三回忌	平成28年(2016年)亡
七回忌	平成24年(2012年)亡
十三回忌	平成18年(2006年)亡
十七回忌	平成14年(2002年)亡
二十五回忌	平成6年(1994年)亡
三十三回忌	昭和61年(1986年)亡
五十回忌	昭和44年(1969年)亡

浄泉寺からのお知らせ

● 春の彼岸会 ●

三月二十一日(水・祝) 午後二時

於：浄泉寺本堂 お勤め・住職法話

● 同朋会 ●

浄泉寺では、毎月同朋会を開催しています。住職の法話をお聞きいただいた後、皆さんでお茶を飲みながらお話しします。どなたでもお気軽にご参加いただけますので、ぜひお誘い合わせお参りください。

今後の詳細な日程は浄泉寺までお問い合わせください。

<発行元・問い合わせ>

真宗大谷派 楠林山 浄泉寺

〒656-0026 洲本市栄町4-3-43 電話 0799-22-4798